



視覚障害者スポーツに関する眼科医へのお願い

—東京 2020 パラリンピックに向けて—

西 田 朋 美

はじめに

昨年、夏季オリンピック・パラリンピックの2020年東京招致が正式に決定した。私自身、国際クラス分け委員 (international classifier) の資格を取得して2年が経過し、国内外でのクラス分けに伴う問題点、選手や競技団体が困っていることに関して見聞することが多くなってきた。その中には、眼科医への要望の声もあり、本稿では、視覚障害競技団体関係者の声を代弁するつもりで、ご紹介していきたい。

1. クラス分け

視覚障害は全盲からロービジョンまで障害程度に幅がある。競技大会の直前にクラス分け委員 (classifier) が検査、診察を行い、見え方ができるだけ

表 国際クラス分け基準

(IBSA Classification Rules and Proceduresより原文のまま
<http://www.ibsasport.org/documents/files/68-1-IBSA-Classification-Rules-and-Procedures.pdf>)

| | |
|----|--|
| B1 | Visual acuity poorer than LogMAR 2.60 (0.0025) 視力がLogMAR2.60 (0.0025) より悪い |
| B2 | Visual acuity ranging from LogMAR 1.50 (0.032) to 2.60 (0.0025) (inclusive) and/or Visual field constricted to a diameter of less than 10 degrees 視力がLogMAR1.50 (0.032) からLogMAR2.60 (0.0025) まであるいは 視野が直径10度以内 |
| B3 | Visual acuity ranging from LogMAR1.40 (0.04) to 1 (0.1) (inclusive) and/or Visual field constricted to a diameter of less than 40 degrees 視力がLogMAR1.40 (0.04) からLogMAR1 (0.1) まであるいは 視野が直径40度以内 |

* すべてよい方の目の基準である

* 括弧内の数値は、各LogMARに相当する小数視力

近い状態の選手同士にグループ分けすることをクラス分けという。視覚のクラスは3つのカテゴリーに分かれており、障害の重い順からそれぞれ B1, B2, B3 に分類される (表)。B3 より良い視機能の場合は、不適格 (not eligibility; 以下 NE) となり、オープン参加となる。クラス分けは、主にジャパンパラ競技大会で行われる国内クラス分けと各種国際競技大会で行われる国際クラス分けに大別される。

2. 眼科医へのお願い

1) 医学的診断書 (medical diagnostics form ; 以下 MDF) 作成

選手が各種国際競技大会で国際クラス分けを受ける時に必須の診断書である。MDF は、眼科医であれば誰でも作成可能である。全て英文で作成しなければならないが、記入内容は極めてシンプルである。MDF 内の主な記載例を別掲するので、ご参照いただきたい (図)。現況、MDF は一般的に見慣れない診断書であるため、眼科で記入を断られ、困っている選手も少なくない。MDF 作成依頼があった時には可能な範囲で応じていただきたい。MDF 原本は、インターネットからダウンロードができる^{URL1)}。

2) クラス分け会場

クラス分けは、一般的に競技大会の会場内やホテル内の会議室等で行われることが多い。クラス分けに必要な機材リストは、一般の眼科外来に置いてあ

Athlete Information (選手情報)

Last Name: KOKURIHA (姓) First Name: Taro (名)
 Gender: Female Male (該当する性別にチェック)
 Date of Birth: 11/Jan/2013 (生年月日を日/月/年の順で記入)
 Sport: Goalball (競技名を記入)
 NPC/NF: Japan (国名)

Medical Information (医学的情報)

Diagnosis: Bil Leber's hereditary optic neuropathy (診断名)
 Medical History:
 Age of onset: 13 years old (発症年齢)
 Anticipated future procedure(s): poor (予測される将来の予後)
 Athlete wears glasses: Yes No (眼鏡使用の有無)
 Athlete wears contact lenses: Yes No (コンタクトレンズ使用の有無)
 Athlete wears prosthesis: Right Left (義眼装着があれば、左右を確認)
 Medical History:
 Eye medications used by the athlete: None (使用中の眼科治療薬。ない場合も記入。)
 Ocular drug allergies: None (点眼アレルギーの有無。ない場合も記入。)

Assessment visual acuity and visual field (視力と視野の評価)

Visual acuity :

| | Right eye (右眼) | Left eye (左眼) |
|------------------------------|----------------|---------------|
| With correction (矯正視力) | 0.04 | 0.04 |
| Without correction (裸眼視力) | 0.03 | 0.03 |

※視力は一般的な測定方法で、小数視力の結果を記入すればよい。

Type of correction: glasses (矯正方法)
 Measurement method: Landolt's ring (ランドルト環)

Visual field :

| In degrees (radius) 度(半径) | Right eye (右眼) | Left eye (左眼) |
|------------------------------|------------------------------------|------------------------------------|
| | As per attached sheet (別紙参照) | As per attached sheet (別紙参照) |

※ゴールドマン視野で測定する場合は、III/4eイソプタで必ず測定する。度に関しては、求心性視野狭窄の場合に、III/4eの半径度数を記載してもよいが、視野検査結果添付のみでもよい。

医師署名欄

I confirm that the above information is accurate.
 I certify that there is no contra-indication for this athlete to compete at competitive level in sport, with the exception of *****.

※1行目は、記載した情報が正しいことを証明しますという内容で、2行目は禁忌となる競技スポーツがないということを証明しますという内容。もし禁忌スポーツがある場合は、その競技名を*****[]に記載する。

Name: Hanako Saitama (MDF作成した医師の氏名)
 Medical Speciality: Ophthalmology (専門の診療科)
 Registration Number: 111111 (Japanese medical license number)
 (日本の医師免許証番号)
 Address: 4-1, Namiki (勤務先住所)
 City: Tokorozawa (勤務先住所の都市名)
 Country: Japan (勤務先住所の国)
 Phone: +81-4-2995-3100 (勤務先電話番号を国際番号から記入)
 E-mail: * * @ # # # # (連絡可能なメールアドレス)
 Date: MDF作成した日付を日/月/年の順で記入。
 Signature: 埼玉 花子
 (英語でも日本語でもよいので、MDF作成した医師の手書き署名)

図1 MDFの主な各項目記載例

るものが大半である。クラス分け会場を設置する時にもっとも懸念されることは、精密機器類である。細隙灯顕微鏡、各種視野計をクラス分け会場へ運搬設置して行うことがあるが、本番に不具合が生じることも多い。諸条件を整えば、機器類がすでに揃っている眼科医療機関でのクラス分けが国内外ともに望ましい。もしもクラス分け会場の依頼があった時には、各眼科医療機関には可能な範囲で前向きにご検討いただけると大変ありがたい。

3) 各競技団体との交流

従来、盲学校でのスポーツ教育は盛んであり、教育との連携は確立しているようだが、眼科医療との連携は乏しい印象である。各競技団体は、競技選手人材の発掘、選手の目の病状等、気軽に相談できる眼科医を求めている。特に選手人材の不足は最大の懸念事項であり、眼科医療スタッフから、競技選手候補となり得る患者へ視覚障害者スポーツを紹介して欲しいと願っている。

おわりに

視覚障害者スポーツには、眼科医としてあらゆる関わり方がある。一番大切なのは、クラス分けや研究対象としてのみではなく、「選手と競技団体に寄り添えること」だと思う。2012年のロンドンパラリンピックでの視覚障害日本人選手の活躍ぶりは、いまだ記憶に新しい。東京2020パラリンピックを盛り上げるためにも、ぜひ多くの眼科医にあらゆる角度から視覚障害者スポーツを支えていただきたい。

[参考ウェブサイト]

- 1) MDFのpdf
http://www.paralympic.org/sites/default/files/document/130910104303791_2013_06_13+VI+Medical+Diagnostics+Form.pdf